

大 綱 主 要 項 目		健全な財政運営				
具 体 的 な 項 目		計画的で効率的な行財政運営				
実 施 計 画 項 目		施策の「選択と集中」の徹底				
担 当 課		財政課		関係課		
No. VI-1-(1)		令和 3	4	5	6	7
実施 年度	実施計画	○	○	○	○	○
	効果又は 数値目標	適正な将来 負担比率 (0%以下)	適正な将来 負担比率 (0%以下)	適正な将来 負担比率 (0%以下)	適正な将来 負担比率 (0%以下)	適正な将来 負担比率 (0%以下)
進捗 状況	実績	A	A	A	A	A
	効果又は 数値実績	0%以下	0%以下	0%以下	0%以下	0%以下
現状と課題						
現在の将来負担の比率は、充当可能財源である基金残高の確保により 0%以下を維持している。今後は市税等の自主財源の大幅な伸びは期待できない一方、扶助費等の義務的経費の増加や、公共施設等の老朽化に伴う維持管理費及び更新による建設費などの投資的費用が増加するなど、厳しい財政状況が予想される。そのため、国・県補助事業の積極的な活用や、財源の計画的かつ重点的な配分、経費の徹底した節減合理化を図る必要がある。						
【将来負担比率】分子＝一般会計等が将来負担すべき実質的な負債(地方債や債務負担等) 分母＝経常的な一般財源の規模(市税、譲与税、交付税、臨財債等)						
課題解決に向けた方策						
大型プロジェクト及び財政推計により中長期的な全体計画の見通しを立て、各事業の必要性・優先性と併せて財源計画を立てる。また、総合計画における実施計画等により、施策の優先順位を見極め、事業の「選択と集中」に取り組むとともに、早期から国・県補助の活用が見込まれる事業を抽出し、事業担当には補助金等による財源確保や既存事業の圧縮を意識させ、効率的で健全な財政運営に努める。さらに、基金の活用を図りながら市債の抑制に十分に配慮する。						
具体的な取組内容						
【令和7年度】 中長期的な全体計画の見通しを立てるための大型プロジェクトの早期集約・ヒアリングを実施することで、早い段階で事業推進の方向性を見出し、実施計画に反映させ、精度の高い予算要求を確保する一連の流れ「予算サイクル」を実施した。また、年度当初にスクラップ事業検討を各課に依頼し、検討結果を予算要求・査定へ反映した。システムや工事関係の専門的な知識を要する事業について、相談窓口体制を継続し、事前指導を実施した。						
総括（推進期間全体における成果等）						
将来負担比率を算出する際の分子となる実質的な負債は、基金などの充当可能財源等が将来債務負担額を上回っているためマイナスの数値となり、将来負担比率は 0%以下と算出されている。引き続き充当可能財源を確保するためには、国・県補助事業の積極的な活用やふるさと納税・企業版ふるさと納税等の財源の確保に努めるとともに、基金の活用(取崩し)と積立てのバランスを保つことで、健全な財政運営を推進することが必要である。						
今後の取組方針等						
大型プロジェクトの早期集約・ヒアリングを継続するとともに、予算サイクルの流れを断行し、十分な事前確認・指導を実施することで、実施計画や予算要求に精度の高い計画・検討内容を反映させる。さらに国・県補助事業や新たな行政課題に対応するための起債等の有効活用を図るため、担当課との連携を強化するとともに、市民ニーズや社会情勢等の変化に応じて「スクラップ&ビルド」の考え方にに基づき、事業の必要性や効果を検証した上で廃止や縮小・事業見直しを実施し、限りある財源の計画的な配分と経費の徹底した節減合理化を図る。						